

読者投書箱

【投稿規定】1行19字詰でタテ書き、55行以内にまとめ、住所・氏名・年齢・職業を明記し、下記宛にお送りください。採用分には全国共通図書カードを進呈します。
〒162-8716 東京都新宿区神楽坂6-30
(株)音楽之友社 レコード芸術編集部「読者投書箱」係

アマチュア・オケの奮闘

■門馬光彦

なんとも充実した演奏会であった。こんなことを体験できるのはそうそうない。11月3日、末廣誠さんの指揮による仙台二ユーフィルハーモニーの第55回定期演奏会が行なわれた。曲目はワーグナーの『ジークフリートの葬送行進曲』とブルックナーの交響曲第8番であった。

すばらしい演奏であったのだが、ブルックナーの前半楽章ではいささかまとまりに欠けていた。緊張のためかミスも目立つた。しかし要所では引き締まつた演奏で、第1楽章の終盤はわくわくさせられた。

後半楽章ではまとまりが取り戻され、第3楽章は本演奏会の白眉であった。ひたすらに美しい、美しい。ハープが現われるあの箇所はあまりにも美しく、ほんとうに身體が痺れてしまった。フル・オーケストラとなる部分は美しさ、迫力ともに兼ね備えられており、圧倒された。これぞブルックナード！そしてコーダ、あまりにも美しいコーダ。その心地よい空間に身を委ねることができ、今まで感じたことのないような気持ちよさを味わつた。最後の変二長調の和音は完璧で、自然と涙が零れた。この25分間はついぞ体験したことのない、そしてこれ以降味わえるかもわからない体験をした。

さて、第4楽章。正直言つて、ブルックナーの第4楽章は苦手であった。わかつてないなあ、そんな奴がこれぞブルックナーなんて言うな、というブルックナー・ファンの声が聞こえてくる（私は大のマーラー・ファンである。やはりブルックナーとマーラーを両方愛するのは難しい）。しかしが二ユーフ

イルと末廣さんはその魅力を教えてくれた。静謐な第3楽章の後、いきなり大迫力のオケストラが登場する。アンサンブルは文句なしで、冒頭から圧倒された。場面は変わつても緊張感は途切れることはなく、そして『闇に対する光の完全な勝利』が訪れた。ブラヴォー！！

仙台二ユーフィルはアマチュアであつても次々と大作に取り組み、第50回でもマーラーの交響曲第9番を演奏した。このときも指揮は末廣さんで、マーラー・ファンたる私は大きな期待を胸に聴きに行つたが、その期待を上回る名演であつた。特に第4楽章がすばらしく、客席でただ涙を流すばかりであつた。プロでもたいへんな大作をアマチュアのオーケストラが次々と取り上げ、しかも高水準の演奏を残す裏側にはたいへんな努力があることが容易に察せられる。次はショスタコーヴィチの第5番を取り上げるが、努力を惜しまぬ仙台二ユーフィルハーモニーに、そして二度も名演を聴かせてくれた末廣誠さんに感謝の意と敬意を表する。（仙台市青葉区 22歳 大学生）